2024年度（令和6年度）

事 業 計 画 書

令和6年3月22日

学校法人　玉手山学園

Ⅰ．　事業計画策定にあたって

教学理念は「夢と志 *Dreams & Wills*」　*2023.11 理事会制定*

玉手山学園の目的 実践 に全教職員で徹する

第４期(2023～2027)学園中長期計画 ２年目(スタート)

玉手山学園“たまがく”の教学活動 「骨組み」

玉手山学園の目的 実践 → 学園中長期計画(5年) → 行動計画(1年)

全教職員“一人ひとり”が「骨組み」を自らも解釈(自分の役割)して仕事に表す

玉手山学園の目的 実践 がすべての基礎

これが玉手山学園(各校園) こんな教育(仕事)で 学び 育つ

建学の精神「感恩」 教学理念「夢と志」 教学姿勢 を

全教職員 一人ひとりが 理解を深める

自分の言葉で語り発信し　この姿勢で教育(仕事)をする

この姿勢で学生 生徒 園児 教職員が成長する

イラスト版を使って人に話せる(こんな学校です)ようになる　愛用する

※学生 生徒 園児に繰り返し伝える 魅せる

“ありがとう”を大切にし 人の幸せを願い

“夢と志”を育てましょう

教職員の持ち味を活かし 夢と志が見つかり育てる“仕掛け”を創り試行・実践

例：夢と志 夢中になることが見つかる取り組み 活動 イベント など

玉手山学園の目的 実践 イラスト版　　**玉手山学園はどんな学校?**

どんな学校かをイメージしやすいように イラストに表してみました

人の成長を 一本の樹木のようにイメージします　下から↑見ていきます

1. **建学の精神「感恩」という土**　→これが玉手山**学園の教育活動**です **教学理念「夢と志」**

   その土には**「教学姿勢」という栄養素**があります(円の中)

   それらは**夢と志の栄養素**であり 育つ**"仕掛け"をどんどん**生み出していきます

   ※いい(肥沃な)土があってこそ 豊かに育ちます

2. **夢と志という太い幹**が 成長していきます　→**あなたの成長**です

   夢と志(やる気 本気)があるから 修得した**知識や技能が活きて**きます

   そして**知恵**が生まれ **行動に表れ形に**なっていきます

3. やがて**夢と志が 豊かな実**になっていきます(結実)　→あなたの**"なりたい自分"**です

   色 形 大きさ 方向は**一人一人それぞれ**です　結実は**ずっと(一生)**続きます

※玉手山学園の目的 実践　イラスト版いかがですか イメージできますか

そしてぜひ自分でも考え(自分の言葉で表し)イメージしてください

共(響)感してもらえることを願っています

※玉手山学園は**"夢中になることが見つかり 元気やる気が出る"**そんな環境をめざしています

夢と志　感恩

Dreams & Wills

学校法人　玉手山学園

玉手山学園の目的 実践 ＜全文版＞

建学の精神　感恩

人は　さまざまな恩恵のもとで　生かされている
この真理に目覚め　感動 感謝から生まれる　豊かな心と情熱をもって
人の幸せを願い　行動するとき　私たちは成長し　豊かな未来社会をつくる

～「ありがとう」に出会い　気づき　感動 感謝の行動から
新しい「ありがとう」が 生まれる～

教学理念　夢と志(Dreams & Wills)

夢と志を育てる（We raise up dreams & wills）

教学姿勢

こんな教育で 学び 育つ

ありがとうを大切に 笑顔で あいさつし 優しく接する

建学の精神「感恩」にもとづき 人の幸せを願い行動

夢と志を形にし 行動する

教職員の持ち味を活かし 学生・生徒・園児が夢中になる“仕掛け(プログラム)”を創り試す

できる方法を考え やってみる

常に改革(できる)の意識とスピード感をもって 創意工夫 試行を重ね その達成に総力結集

For the students と 経営的視点

学生・生徒・園児のために 有限の予算で最大限の教育成果

教育人として 誇り 責任 誠実

教育人として自己の能力・人格の向上に努め その使命を誠実に遂行

ビジョン

1　感恩 夢と志 の具現化
- 教学姿勢の実践
- 夢と志の多様性尊重
  （大きさ 色 形 方向はそれぞれ）

2　教育力の向上
- 学修成果
  （できるようになる）
- 修学成就
  （笑顔での卒業）

3　教育体制の充実
- 組織安定
  （学園在籍者数5,000人）
- ４校園体制堅持
- 健全収支
- 施設 設備等の充実 愛用

4　地域共生
- 社会に愛され
  成長する学園

5　学園総合力の向上
（学園ファミリー意識）
- 各校園の相互協力 尊重
  （職員 学生 生徒 園児）

Ⅱ． 法人の概要

１． 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等		開設年度
関西福祉科学大学	社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻（博士前期課程）	平成 13 年
		臨床福祉学専攻（博士後期課程）	平成 15 年
		心理臨床学専攻（修士課程）	平成 15 年
	社会福祉学部	福祉創造学科※1	平成 9 年
	心理科学部	心理科学科	平成 28 年
	健康福祉学部	健康科学科	平成 15 年
		福祉栄養学科	平成 15 年
	保健医療学部	リハビリテーション学科	平成 23 年
		理学療法学専攻	
		作業療法学専攻	
		言語聴覚学専攻	平成 27 年
	教育学部	教育学科	平成 28 年
		子ども教育専攻※2	
		発達支援教育専攻※3	
		子ども発達教育専攻※3	
関西女子短期大学	保育学科		昭和 40 年
	養護保健学科		昭和 42 年
	歯科衛生学科		平成 17 年
	医療秘書学科		平成 23 年
	専攻科　口腔保健学専攻		令和 5 年
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科		昭和 17 年
認定こども園　関西女子短期大学附属幼稚園			昭和 40 年

※1 関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科は令和 6 年 4 月より福祉創造学科に名称変更
※2 関西福祉科学大学教育学部教育学科子ども教育専攻は令和 4 年 4 月より廃止
※3 関西福祉科学大学教育学部教育学科発達支援教育専攻は令和 4 年 4 月より子ども発達教育専攻に名称変更

２． 学生・生徒・園児数

＜関西福祉科学大学＞　（単位：名）

研究科・学部・学科・専攻等		入学定員	編入学定員（3 年次）	学年進行中の収容定員	在籍者数(R6.4.1) 1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計	R5 年度卒業生数
社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	3	7			10	2
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	1	1	1		3	1
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	2	5			7	2
大学院　計		33	0	69	6	13	1		20	5
社会福祉学部	福祉創造学科※1	140	20	600	100	118	105	148	471	128
	計	140	20	600	100	118	105	148	471	128
心理科学部	心理科学科	110	10	460	87	73	86	123	369	99
	計	110	10	460	87	73	86	123	369	99
健康福祉学部	健康科学科	80	10	340	51	61	56	77	245	82
	福祉栄養学科	80	5	330	48	64	47	55	214	54
	計	160	15	670	99	125	103	132	459	136
保健医療学部	リハビリテーション学科	170	0	680	144	169	142	122	577	135
	理学療法学専攻	80	0	320	83	94	78	70	325	71
	作業療法学専攻	50	0	200	27	36	40	35	138	33
	言語聴覚学専攻	40	0	160	34	39	24	17	114	31
	計	170	0	680	144	169	142	122	577	135
教育学部	教育学科	100	0	400	35	49	64	67	215	72
	子ども教育専攻※2		0	50				15	15	28
	発達支援教育専攻※3		0	50				52	52	44
	子ども発達教育専攻※3	100	0	300	35	49	64	－	148	－
	計	100	0	400	35	49	64	67	215	72
大学　計		680	45	2,810	465	534	500	592	2,091	570

※1 関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科は令和 6 年 4 月より福祉創造学科に名称変更

※2　教育学科子ども教育専攻は令和４年４月より廃止
※3　教育学科発達支援教育専攻は令和４年４月より子ども発達教育専攻に名称変更し、入学定員変更　50 名→100 名

＜関西女子短期大学＞　（単位：名）

学科・専攻科	入学定員	収容定員	在籍者数(R6.4.1)				R5 年度卒業生数
			1 年生	2 年生	3 年生	計	
保育学科	120	240	55	57		112	52
養護保健学科	40	80	25	16		41	11
歯科衛生学科	100	300	82	75	110	267	73
医療秘書学科	40	80	31	28		59	22
短大　計	300	700	193	176	110	479	158
専攻科　口腔保健学専攻	5	5	3			3	3

＜関西福祉科学大学高等学校＞　（単位：名）

学校名	入学定員	収容定員	在籍者数(R6.4.1)				R5 年度卒業生数
			1 年生	2 年生	3 年生	計	
関西福祉科学大学高等学校	270	810	282	377	310	969	283

※入学定員は公募入学定員を表記（R3 年度 270 名、R4 年度 270 名、R5 年度 270 名）
　学則上の入学定員は 470 名

＜認定こども園　関西女子短期大学附属幼稚園＞　（単位：名）

学校名	入学定員	利用定員	在園児数(R6.4.1)								R5 年度卒園児数
			0 歳児	1 歳児	2 歳児	満3 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	
認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園	―	360	3	13	15	0	67	71	76	245	89

３． 専任教職員数

（単位：名）

学校名	R6 年度現員（R6.4.1）		計
	教員	職員	
関西福祉科学大学	126	51	177
関西女子短期大学	34	14	48
関西福祉科学大学高等学校	57	6	63
認定こども園　関西女子短期大学附属幼稚園	27	1	28
法人	0	1	1
法人本部	0	20	20
関西福祉科学大学附属整形外科リハビリ診療所	0	6	6
合　計	244	99	343

〔専任教員内訳〕（R6.4.1）

＜関西福祉科学大学＞

（単位：名）

学部・学科		大学設置基準上必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
		専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
社会福祉学部	福祉創造学科	14	7	4	9	2	4	1	1	2	1	0	0	9	15
心理科学部	心理科学科	10	5	5	3	2	3	2	0	0	0	0	0	9	6
健康福祉学部	健康科学科	14	7	6	6	0	2	0	1	0	0	0	0	6	9
	福祉栄養学科	10	5	5	4	1	0	2	3	0	0	0	0	8	7
保健医療学部	リハビリテーション学科	17	9	6	4	5	3	7	3	6	1	0	0	24	11
教育学部	教育学科	10	5	7	3	4	4	3	1	0	0	0	0	14	8
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		28	14												
合　計		103	52	33	29	14	16	15	9	8	2	0	0	70	56

専任教員数には、学長兼務者（1 名）を含む

総計	126

＜関西女子短期大学＞

（単位：名）

学科	短大設置基準上必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
	専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保育学科	10	3	1	4	1	2	0	2	0	0	0	0	2	8
養護保健学科	4	2	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	3
歯科衛生学科	6	2	3	3	0	3	0	2	0	0	0	2	3	10
医療秘書学科	4	2	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	2	3
短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数	5	2												
合　計	29	11	8	9	1	8	1	4	0	1	0	2	10	24

専任教員数には、学長兼務者（1名）を含む

総計	34

＜関西福祉科学大学高等学校＞

＜認定こども園　関西女子短期大学附属幼稚園＞

（単位：名）

学校名	専任教員数		計
	男	女	
関西福祉科学大学高等学校	44	13	57
認定こども園　関西女子短期大学附属幼稚園	2	25	27

Ⅲ．　事業計画の概要（重点施策）

関西福祉科学大学

１．建学の精神「感恩」の周知と実践
２．教学理念「夢と志」の周知と実践
３．夢と志を育てる“仕掛け”の創作と実践
４．就職支援の充実
５．国家試験、各種資格試験等の合格支援
６．退学、休学者減少対策
７．入学定員の充足

関西女子短期大学

１．建学の精神「感恩」の周知と実践
２．教学理念「夢と志」の周知と実践
３．夢と志を育てる“仕掛け”の創作と実践
４．就職支援の充実
５．国家試験、各種資格試験等の合格支援
６．休学者・退学者数減少の対策強化
７．入学定員の充足

関西福祉科学大学高等学校

１．「夢と志」を育み、生徒の「やる気と元気」を引き出す。次の５項目を実践
　①授業を大切に　②時間を守る　③笑顔で挨拶
　④「ありがとう」の心を大切に　⑤課外活動を活発に
２．生徒一人ひとりを大切にしっかりと関わる
３．主体的学習習慣の確立と進路希望実現
４．教育のデジタル化への普及対応と授業実践
５．本校の特長を伸ばし、全学協働した説明会・広報活動を強化推進する

認定こども園　関西女子短期大学附属幼稚園

１．建学の精神「感恩」と教学理念「夢と志」の周知と実践
２．「夢と志」を育てる“仕掛け”の創作と実践
３．教員の資質・能力の向上
４．働きやすい環境の醸成
５．魅力的な広報活動の実施と園児の確保

法人本部

１．教学姿勢の実践
２．私立学校法改正に伴う整備
３．職員のさらなる能力開発の推進
４．内部統制システム検討
５．事務部門組織再編の検討

Ⅳ. 財務の概要

1. 令和６年度予算編成の基本方針

わが学園は、建学の精神「感恩」を実践する人を育成し、豊かな未来社会をつくることをその使命としています。

各校園は、それぞれの基本理念（使命、教育理念、教育目的・目標）を掲げ、その実現に向けて、学生・生徒・園児の安心安全を優先に「夢と志」（Dreams & Wills）を伸ばし育てるため、総力を結集して、教育事業活動に邁進しています。

学園を取り巻く環境は、少子高齢化の中、とりわけ 18 歳以下の人口減少が顕著となり、厳しく、大きく変貌する途上にあります。教育活動を遂行する主たる財源は、学生・生徒・園児からの学納金です。限られた財源で最大限の教育効果をあげることが求められています。

令和６年度予算編成にあたり財政の健全化を見据えた基本方針を下記に示します。

（1）第４期中長期計画（2023-2027）、中長期財務計画（2023-2027）に基づいた予算編成

①第４期中長期計画２年目。単年度目標となる「行動計画」実現の裏付けとなる財源の明確化

・中長期計画（同財務計画）における施設設備等の整備事業に必要な資金は確保する

②中長期財務計画の２年目。財務重要指標（事業活動収支差額比率）を堅持

（2）財政健全化のための経営改善と収支バランスの適正化に向けた予算編成

①事業活動収入の拡大

・学生生徒園児等の定員確保、補助金及び競争的外部資金及び寄付金の積極的獲得

②事業活動支出制御

・教育の質及び研究力向上の費用は積極的対応
・新規事業計画の策定にあたっては『スクラップ＆ビルド』を基本とする
・経常費用に盛り込まれる習慣的業務については、見直しの対象とし事務効率化を検討
・経常費用については前年度予算額を基準とせず、原則ゼロベースにて検討
・学校会計における予算制度の趣旨を勘案し、当初予算を堅持することを原則とし、補正予算事業については慎重に対応
・費用対効果を最大限に追求（無駄を省いた予算の策定）
・奨学金の制御と定員確保（入学者増加）に向けた施策の実践
・総人件費については、学園人事計画に基づき制御を行う

（3）学園構成員に対する経営（財務）の理解を深める取組強化

・「健全収支」、部門毎の「収支バランス･標準運営費」等の理解を深めるための啓発

2. 予算の概要（令和６年３月８日時点）

（1）資金収支計算書（内訳表ベース）　（単位：百万円）

	令和６年度予算	令和５年度予算
資金収入合計	5,311	5,616
資金支出合計	6,256	6,220
資金収支差額	△945	△604

令和６年度の予算は、前年度と比べて資金収入が減少、資金支出が増加し、収支の均衡を欠く予算編成となりました。

資金収入は、厳しい学生募集環境のため学生・生徒数が減少し、学納金が前年度予算に比べて減少すると見込まれること等により、前年度比 305 百万円減の 5,311 百万円となりました。

資金支出は、前年度に引き続き、校舎の設備に係る大きな更新工事を予定していることから、前年度比 36 百万円増の 6,256 百万円となりました。

その結果、資金収支内訳書における資金収支差額は△945 百万円となり、支出超過の予算編成となりました。

(2) 事業活動収支計算書　　（単位：百万円）

	令和 6 年度予算	令和 5 年度予算	増減
教育活動収入計	5,299	5,601	△302
教育活動支出計	6,531	6,414	117
教育活動収支差額	△1,232	△813	△419
教育活動外収入計	12	14	△2
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	12	14	△2
経常収支差額	△1,220	△799	△421
特別収入計	0	1	△1
特別支出計	0	0	0
特別収支差額	0	1	△1
〔予備費〕	20	20	0
基本金組入前当年度収支差額	△1,240	△818	△422
基本金組入額合計	△461	△542	81
当年度収支差額	△1,701	△1,360	△341

（参考）

事業活動収入	5,311	5,616	△305
事業活動支出	6,551	6,434	117

事業活動収入は、主として学納金が前年度予算に比べて減少すると見込まれるため、前年度比 305 百万円減の 5,311 百万円となりました。

事業活動支出は、前年度に引き続き校舎の大規模な修繕に係る経費支出が発生し、人件費も前年度に比べて増加すると見込まれることから、前年度比 117 百万円増の 6,551 百万円となりました。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は前年度比 422 百万円減で△1,240 百万円、基本金組入後の当年度収支差額は前年度比 341 百万円減で△1,701 百万円となり、翌年度繰越収支差額が減少する予算編成となりました。

3. 主要財務指標

（%）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度（予算）	R6 年度（予算）	全国平均 (R4 年度)
人件費比率	55.3	59.0	61.1	65.6	50.9
人件費依存率	76.8	83.8	85.7	94.7	69.3
教育研究経費比率	35.3	37.6	41.7	45.3	36.1
管理経費比率	10.1	10.4	11.4	12.1	8.5
事業活動収支差額比率	△1.2	△7.9	△14.6	△23.4	4.6
基本金組入後収支比率	102.8	108.3	126.8	135.1	104.7
学生･生徒等納付金比率	72.0	70.3	71.3	69.2	73.5
補助金比率	24.3	24.4	25.4	26.4	14.4
減価償却額比率	11.0	10.4	10.5	10.1	11.5

（医歯科系法人を除く）

◇ 各比率は以下による

人件費比率	（人件費／経常収入）
人件費依存率	（人件費／納付金）
教育研究経費比率	（教育研究経費／経常収入）
管理経費比率	（管理経費／経常収入）
事業活動収支差額比率	（基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入）
基本金組入後収支比率	（事業活動支出／（事業活動収入－基本金組入額））
学生･生徒等納付金比率	（納付金／経常収入）
補助金比率	（補助金／事業活動収入）
減価償却額比率	（減価償却額／経常支出）

（注）「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計
「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

以上